

九州概観

~~D-18~~
D-11

九州概観

1958. 8. 15

Paranoid + 概観

日本海外協会連合会

LIBRARY

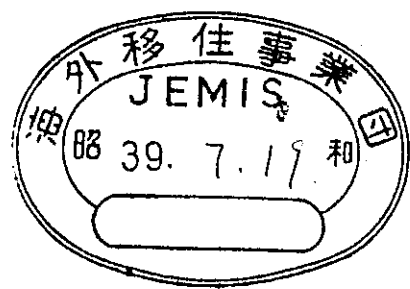
IV-23
N

(移住地資料別冊)

パラナ州

パラナ州概観

1959. 8. 15



日本海外協会連合会企画課

JICA LIBRARY



1024177[6]

Paraná 州の概観

国際協力事業団

受入 月日	84. 8. 21	703
		19
登録No.	13408	EA

パラナ州の地理(概略)

1. 位置・面積・人口

パラナ州はブラジルの南部南緯22度30分と26度40分との間及西経約48度と54度60分との間にあり、面積約20万平方杆、人口約350万を有する。

2. 地勢

海岸山脈-----海岸低地とクリチバ高原とを分ける。

セリンニヤ山脈-----クリチバ高原とカンボス・ジエライス高原とを分ける。

エスペランサ山脈-----カンボスジエライス高原とグアラバアーバ高原とを分ける。

アプカラナ山脈-----チバジー河とイバイ河の分水嶺

ドーラドス、ピタンガ、カベルネーゾ、ボイプレットの一連の山脈の水は、ピキリ河とイグアスーの大河に注ぐ。

パラナの地勢を概観すれば東部の海岸地帯から西へ海岸山脈を越れば平均高さ900米のクリチバ高原に出更に西すれば中央高原たるカンボスジエライスの高原(最高1215米)に出る。

(この北方はゆるやかに傾いてカフェー地帯をなす)ゆけどもゆけども大草原のはてしない峠を越ればグアラバアーバの大高原に達する。ここは最高1399米である。(この北西に向つて土地は傾き200米〜600米のゆるい起伏がありそこは一般には平なカフェー地帯と見てよい。

パラナ州の概観

◎河川

△パラナ河-----ブラジルオニの大河。聖州ウルグー・^(チエテ)ブンガーの滝からイグアスーの滝まで水運の便があり、イグアスーから65キロ南のメンデス港から再舟便が始まる。イグアスーのセツテ、ケーダスは滝の数が水量により17から23ともなり時には水の高さが20米増えることもあるという。

△パラナパネマ河-----流域の主な郡、ジャカレージン、カンバラ、アルボラーダ・ド・スール、ポレカ、ツ、センテナリオ・ド・スール、ルピオノーポリス、サントイナシオ、ノーバエスペランサ、パラナバイ等。

支流イクラレー川の流域の主な郡-----シケイラ、カンポス、カルローポリス、リベイロン・クラーク郡等

支流シンザ川の流域の主な郡-----ピライドスール、トマジーナ、ジョアキン・ターボラ、イバイチ、サントアントニオダプラチーナ、バンデイランテス等。

△チバジー河-----パラナパネマ河の重要な支流でその流域にはバルメイラ、ポンタグロツサ、チバジー、サンゼローニモ、ダセーラ、アラルーバ、ロンドリーナ、アサイー、イピポラン、ジャタイジンニョ、セルタノーポリス、ウライ、セルタネー

Parana 河の概観

ジヤ、プリメイロド、マイオの郡がある。カンポスジェラ儀高原に源を發して500キロある。

△イバイー河-----パラナ河の支流、流域の主な郡、プルデントーボリス、マリンガー、ノーバエスペランサ、パラナバイー、サンタ・イザベルドイバイー。

△ピキリー河-----パラナ河の支流、パラナ河の河口に1929—1932年にバンデイランテスにより破壊されたシウグッド、レアル・デル・グアイラ（現グアイーラ市から40キロの地点）の廢墟がある。流域にはグアラプアーバ、ピタンガ、ランジエイラ・ド・スール、グアランアスー、カスカベール、カンポモロン、グアイラ、等の郡がある。長さ800キロ。

△イグアスー河-----パラナ河の支流、河口附近に出カ30万馬力といわれるサンタ・マリア大滝がある。幅1キロ、高さ70米。流域の主な郡にはグリチーバ、サンジョゼー・ドス・ピニヤイス、アラウカリア、カンポラルゴ、ラーバ、パルメイラ、サン・マテウス、ウニオン・ダ・ヴイトリア、ランジエイラドスール、カスカベール、フォスドイグアスー。

ピキリー河とチバジー川の小史

△ピキリー川を道としてスペイン人は十七世紀頃聖州イグアツペカナネアまで達する土地を領土としようとしたがピラチニンガ

のバンデイランダスにより毒滅された。パウリスタはリベイラ川を南下してカンポスジェライスを開きチバジー川の上流から上つて之をマツトグロッソ、ゴヤス探険の道とした。

◎気 候

パラナは大体は温帯に属しているが海岸地帯の気温は年平均20度であり、南東の風が吹き雨が多く湿度が高い。高原地帯は雨季乾燥季がはつきりしており年平均17度であるが雨季は熱帯と反対に冬である。気温等は緯度、高さにより違ふことは勿論である。例えばクリチーバの平均温度16.2度、ジャタイシンニヨの最高温度は39.2°Cである。

◎産 業

パラナ開発オ一期は金の時代、これは約百年続きオ二期牧畜の時代で一八世紀の初めサンパウロからクリチーバを至南大河州に行つたので途中である関係と草原のために発達し今日も続いている。オ三期はエルバ・マテと木材の産出時代、現在は農業、特にカフェーの時期である。勿論金は少いが他のものも今尚産出し、又は盛んである。現在の産業を大別すると、

農 業-----カフェー、米、ミーリヨ、マンショカ、大豆、棉、その他

林 業-----ペローバ、セードロ、ファイゲラ、松、インブイア、ピニオン、その他

鉱 業-----金、銀、鉄、マンガン(ポカイワーバ、セーロア、ズール、リオブランゴ、カンポ、リラルゴ)石灰岩(リオブランゴ、ド・スール)石炭(シンザ川

Paraná 州の概観

の沿岸、ジャガライアイバ、フリウーバ地方)
瀝炭(サンマテウ、レボウサ、イライチ、テイシ
エイラ、ソアーレス、インビツバ、イピランガ、
レゼルバ、オルチゲイラ、サンジエローニモ、ト
マジーナ、ウエセス、ブラス、シケイラカンボス
等)

鉱 泉-----玉として硫黄、カンポラルゴのオーロ、フィーノ、
ガラパーバのサンタ・クラーラ、マレーのドリゾ
ン、ジャリアイアイバのランベドール。

商 業-----輸出品の大部分はコーヒー(パラナグア港より)
木材(アントニーナ港)、バナナ、果樹
輸入品は、小麦、機械、自動車、その他精密機械、

工 業-----コーヒー精選、精綿、精糖、マテ製茶、精油、製
材、製紙。

その他交通等記すべきものがあるが次の機会にゆずる。

◎カンバラ郡

現在のカンバラ郡地域は元ジャカレージンニョ郡に属して
いたが1923年カンバラ部落は州令により村とされ、1929
年4月2日市となった。

人口市内約1万、郡内2万5千、計3万5千、面積366.2
km²、標高400米、市内に小學校、中學校、商業學校、圖書
館、病院等あり、附近の町カイウアーがある。鉄道、バス、飛
行機の発着場がある。郡の産物としてはコーヒー、ミーリョ、

フェイジョン等である。

日系家族数 150 と云われる。

◎ アンジラー郡

アンジラー郡は元カンパラー郡の一区として村をなしていたが 1935 年ブラリオ・バルボザ・フェデースが駅の周囲 5 アルケールを分譲して市の中心を作り今日の如く発展せしめた。

1944 年 1 月 1 日独立して郡政をしいた。

面積 440 km^2 、人口約 3 万、中市内 3 千、小学校、医院、銀行等あり、標高 480 m 、主作物としてコーヒー、ミーリオを産する。日系家族数 40 と云われる。

◎ コルネリオ、プロコピオ郡

コルネリオ、プロコピオに最初に入った者はサンパウロの農業者で、彼等は土地を求めコーヒーを植えた。後バルボザ農業会社が同じ目的で大面積を求め、コーヒーを植えた。元の郡役所は現在のところから 1.25 キロはなれた所にあつたが駅が作られるとその周囲を中心として部落をつくり、1932 年村となり、1938 年 2 月 15 日郡となり、ここを郡役所所在地とした。

人口 4 万 4 千中市内約 1 万、面積 $1,491.8 \text{ km}^2$ 、小学校、郵便局、電報電話局、病院、空港等あり、主作物としてはコーヒー、フェイジョン、ミーリオ、養鶏も盛んである。日系 3 百家族といはれる。

附近の町にセルタネージャ、レオーポリス、コンゴニャス等がある。

Pazama 州の概観

◎サンタマリアーナ郡

1938年10月20日サンタマリアーナはバンデイランテス郡の一區とされ、後カフェ栽培発展と共に独立して1947年11月1日郡政をしいた。

人口1万5千、中市内5千(推定)、面積409.0km²、標高484m、シンザス、ラランジンニヤ、パラナパネマ諸川の流域にある。小学校、郵便電信電話局、銀行、病院等がある。推定日系家族数 100。

◎ジャタイージンニョ郡

パロン、アントニーナはカンポス・ド・ピケレーを発見し、カンポス・ジェライスとマツト・グロソをつなぐ路を開き、又舟航の出発点までチバジー川へ向けてピカーダをあげさせた。この道がジャタイーの港に出た。

そしてこの方面をジョアキン・フランシスコ・ロッペスが開拓し、ピカーダの終つたところにアントニーナ男爵がミリタリー・コロニアを作つた。1851年1月2日のことである。

1855年8月10日、トマス・ジョゼー・マリース少佐が軍官の正式の指揮官となつた。

ジャタイーの軍コロニアはマツト・グロソ県への根拠地となり、そのマ州侵入はパラガイの独裁者ソラーノ・ロッペスの帝国主義とぶつかることになつた。1872年4月12日軍コロニアは小教区、1920年2月23日にサン・ジェローニモ村となり、1929年3月14日ジャタイーの名を持つ市となつた。1938年10月20日アサイ区を含めたサン・ジェロ

ニモ郡となり、1943年12月30日ジャタイジンニョと改名、1947年10月10日ジャタイジンニョ郡となった。

面積 279.2 km^2 、標高 346 m、チバジー川の流域にある。人口市内1千、郡内1万1千、主作物 カフェー、フェイジョン、交通 鉄道、バス、郵便、電報局、小学校等あり、日系家族 20。

◎イビポラン郡

サンパウロ・パラナ鉄道の発展と共にセルタノーポリス郡内にイビポラン駅を作ったのが始まりで以来ここは大発展をした。この創立に対しては北パラナ南発の恩人のノ人であるアレシャンドレ、バルトロンの力によるところ大である。

1938年10月20日セルタノーポリス郡内にイビポラン区が設置さる。

1947年11月8日 独立してイビポラン郡政をしく。

面積 282.4 km^2 標高 450 m、チバジー流域にある。人口 市内5千、市外1万5千、主作物 コーヒー、フェイジョン、日系家族数 40。

◎アサイー郡

1938年10月20日、サンジェローニモ郡のアサイー区となる。

1943年アライポランガ区と改名。

1945年2月26日 アサイー郡となる。

1947年10月10日 ジャタイジンニョとウライの区が独

Parana 州の概図

として各、郡となる。

面積 787.4km²、チバジー流域、市内人口 8千、外ノ万
5千、

主作物、コーヒー、棉、フェイジョン、米、ミーリョ

交通 バス、郵便・電報局、銀行、茶局、小学校等あり、

郡内にトレスパラス移住地（ブラジル拓植組合）あり、日系家
族数 2千5百、

◎ロンドリーナ郡

ロード・ロバットを団長とする英国資本家が技師を伴い北パ
ラナを訪問した時、地味の肥えたテラ・ロツシヤに驚歎し、
フィゲラ・ブランカ、パウダーリョ、セードロ、ペローバ等
があるので感銘した。そこで1925年50万アルケール以上
求めて北パラナ土地会社を興した。

1929年8月ノ8日聖州オウリンニョスからテラ・ロツ
シヤに向い、2ノ日チバジ川に達しロンドリーナ創設のオーパ
として標木をたてた。

1930年最初の土地購入者及日本人・ドイツ人のコロノ等
が入つてから僅かな中にロンドリーナの人口が増えた。

1934年12月10日、ロンドリーナ郡政をしく。

1943年12月30日、ローランジア、アプカラナ両区を
失う。

1947年10月28日、カンベー区を失う。

面積、2,358.0km²、標高600m、チバジー川流域、市
内7万、外5万、

主作物 コーヒー、マリーヨ、豆、マンジオカ、ポタトドーセ
等。

北パラナオーの交通、文化の中心地である。

日系家族数 5百。

◎カンペー郡

北パラナ土地会社はロンドリーナを開発するのみならずその
周囲に新しい村を作った。そこにカンペーが現われ、1947
年10月28日ロンドリーナ郡から離れて郡政をしく。

面積 223.4 km^2 。 標高 650 m。 人口 市内1万、
外1万5千。

主作物 豆、マンジオカ、米、コーヒー、

バス、郵便、電信、電話局あり。

日系家族 40。

◎アラポングス郡

1935年アラポングスの現在の町に開拓が始まり、1943
年の末までロンドリーナ郡に属していたが1943年12月30
日にローランジア郡に編入され、1947年10月10日コー
ヒー栽培と鉄道の分岐点のため政策上ローランジア郡ローラン
ジア区と共にアラポングス郡を創立した。

面積 390 km^2 (市内2キロ四方) 人口 市内2万5千、
外2万5千。

標高 815 m。 サンパウロより700キロ。 ロンドリーナより
40キロある。

小、中、高等学校、カフェー、マキナ、水道、下水道、飛行場。

Parana 州の概観

等あり。

市は住宅地、教育地として知られるが大体小地主の集団地である。

日系家族全体で35の家族、附近にエスペランサ耕地（カトリック）120家族あり、ノーボ・ムンド50家族あり。

主作物 材木、ミーリオ、米、豆、コーヒー、マンジオカ、牛豚。

銀行、郵便局、鉄道、バス等あり。

◎ローランジア郡

カンベール後直ぐにローランジアの開発が始まり、1943年末までロンドリーナ郡に属し1944年7月1日カピウーナと改名、郡となつた。

1947年10月10日アラポングス区を失いローランジアの旧名に戻り郡となる。

面積 586.0 km^2 、標高 750 m、人口 3万

主作物 材木、コーヒー、米、ミーリオ、豆

鉄道、バス、郵便、電報、電信、銀行、薬局等あり。

日系家族 200家族

◎アプカラナ郡

1943年12月30日までロンドンリーナ郡に属していたが独立して郡政をしく。

面積 4068.7 km^2 、イバイー川の流域、人口 5万。

産物 材木、豆、米、ミーリオ、コーヒー、日系家族150。

◎ジャグアピタン郡

、1943年12月30日セルタノーポリス郡の一区となり、

1947年11月7日郡政をしく。

面積 1289.0 km^2 、パラナパネマ河の流域、附近の都市グアラシーあり、人口2万、産物、材木、コーヒー、標高450 m、日系家族数 35。

◎ポレカトゥー郡

1940年リカルド・ハナルデリー家によりブラジリアの名を以て創立された。

1943年12月30日セルタノーポリス郡内にポレカトゥー(サルト、ポニートの土人語)の名を以て区とされカピバーラ滝に対する儀礼とした。

1947年11月5日ポレカトゥー郡となる。

面積 1266.4 km^2 、標高300 m、人口2万、主産物 コーヒー

◎ジョアキン・デ・ターボラ

1930年7月6日郡政をしく。こゝはミゲル・ヂェアス大尉が1929年3万本のコーヒーを植えたのが元で鉄道の発展と共に大いに開発された。

1947年10月10日クアチグアを失う。

面積 509.5 km^2 、人口1万5千、標高634 m、主産物 ミーリオ・コーヒー、日系家族 15。

◎ジャカレージンニョ郡

1888年にアルカンターラー家(ミナス人)が未開の地にファゼンダ・プレッタを郡内につくつた。同行したジョアキン・

Paraná 州の概観

イナシオ・デ・メーロ・エ・ソニガ神父が小さい寺をたてたのが1895年2月25日のこと。その後この土地の良いのを聞いたミネイロ・パウリスタは続々と来て開発に当つた。

1896年、アントニオ・ダ・アルカンタラ中尉がパラナパマ河のポルト・ドス・アルカンターレスへ行く新しい道を開いた。1900年4月2日ノバ・アルカンターラ村となり、

1902年4月3日ジャカレージンニョと改名。1908年1月20日郡政をしく。

面積 691.5 ไร่ m^2 、 標高 435 m、 人口 市内1万5千、 外3万、 主作、コーヒー、豆、ミーリョ、米、日系家族数 30。

◎カルローポリス郡

カルローポリス郡はサン・ジョゼー・ダ・ボア・ウイスダ郡の一區であつたがコーヒー栽培の発展により1907年8月17日ジャボチカバールの名を以て警察区となつた。この町の開発者マノエル・レイテ大佐(百家族以上のコロノが当時いた)は1907年4月2日ジャボチカバール郡を創設した。

カルローポリスと改名したのは市会により当時の州統領カルローポリス・カヴァルカンチー・デ・アルブケルケ中佐に対する儀礼として決議され、1920年3月20日州議会により改名を承認された。日系100家族。

面積 442.4 ไร่ m^2 、 標高 550 m、 イタラレー川の流域、 人口 5千、 市外1万5千、 主作、コーヒー、ミーリョ、米、棉、日系100家族。

◎ファチグアー郡

1936年—1947年までジョアキン・ターボラ郡に属していたが、コーヒー栽培と鉄道の発展により1947年10月26日独立して郡政をしく。

面積117.8 km^2 、標高678m、人口市内3千、外1万
主産 ミーリオ、バタタ、コーヒー、米、日系小教。

◎ピライー・ド・スール郡

18世紀の初めにピライー・ド・スールの開発が初まり、ルツカス・ロドリゲス・フランサ(州統領の子)神父はピライー・ド・スールの溪谷に重要なファゼンダを持っていた。後になつてマノエル・ダ・ゴスタとアンナ・メンデス・テノリアがそこに最大の人口を有する部落をつくつた。

18世紀の中頃、ピライー、ランサ、フンドン等の部落の住民がカツペリンニャを立てようとしたがアンナ・メンデス・テノリアは夫の援助を得て、サンタシナ寺院をピライー川の外にたてた。然しこの寺院は創立者保護者の死後かへりみられず1765年にはバラバラになつていた。マノエル・フランシスコ・セレラ神父が訪問した時、復旧するまでクリチーバの大寺院に神聖なる器等は預ることになつた。

19世紀の中頃ランサの住民がセニョール・メニーノ・デウス教会をたて、その周囲に部落をつくつた。

1872年4月12日ランサの部落はピライーの村となり、
1882年6月24日ピライー郡となり、1943年12月30日ピライー・ミリン郡と改名、1947年10月10日ピライ

Paraná 州の概観

ー・ド・スール郡と改名する。

面積 1,347.2 ㏊ m^2 , 標高 1,025 m, フルナ山脈あり,
人口 5千, 外 1万5千, 産業, 材木, ミーリオ, 豆,
日系 小数.

◎イバイチ郡

1909年バーラ・ボニータの名をもつ部落がつくられ,
1947年までトマジアーナ郡に属していた。コーヒー栽培が
発展したので1920年には665人になり, 1947年11
月9日郡政をしく。

面積 935.2 ㏊ m^2 , 標高 850 m,

人口 2千, 外 1万,

主作 コーヒー, 米, パタタ,

日系約70家族,

◎カストロ郡

パラナ州に於ける最も古い町の一つで17世紀には既にサン
パウロよりマツト, グロッソ州へ行く途筋にあつた。

面積 3069.7 ㏊ m^2 , 標高 988 m, 入口市内 1万, 外 3
万。産物 松, イングイアーア, セードロ, 炭, ミーリオ, 豆,
小麦, 米, 工業製材所,

◎パラナグアー郡

1616年殺人者ドミンゴス・カネード(ペネード?)がサ
ンツイセンテの当局に追われてここに居すわることになった。
1617年アントニオ・ペドロージを長とするバンデイランテ
スによりパラナ沿岸一帯採検された。その中には若きガブリエ

ル・デ・ラーラもいた。彼はセーラ・ネグラの沿岸に金を発見したので親せき、友人を呼び或はペネード（殺人者の子孫？）が来たりしてコチンガ島を開いた。然しこゝは植民地としては不適なので中止し、ドアルテ・コレア・ヴァスケアネスに引上げた。リオ・デ・ジャネイロの総督はラーラをパラナグアアの創立者カピトンとした。1646年1月6日のことである。

1648年7月29日ドン・ジョン四世の名を以てブラジル総督により郡政をしいたが、1842年2月5日サンパウロ県の一都市となり1854年7月26日パラナ県のコマルカとなった。

面積 1,151.6 km^2 。高さ 10. m。人口 市内 2万、外 2万。産物 材木、魚、米、砂糖キビ、ブラジルオシの輸出入国、コーヒーを主とする。

日系 90家族

◎モレッテス郡

1733年アントニオ・ロドリゲス・デ・カルブーリオ大尉夫妻により開かる。

日系 9家族、面積 719 km^2 。

◎アントニーナ郡

モレッテスから鉄道で16キロの地点にある港である。

1774年グラシオーガ耕地内に耕主がノッサ・セニョーラ・ド・ピラール小寺をたてたのが始まりで1857年町となった。

材木の輸出港である。

面積 744 km^2 。人口 市内 8千、外 1万、産物 材木、米。

Paraná 州の概観

日系 9 家族。

◎フリチーバ郡

太平洋と南大西洋とをつなぐ土人等は常にパラナを横切るパラナ河、チバジー川、イグアッペ川どを利用した。又それ等の川を利用して白人等は土人と交易したり金を採ったりした。それでその道にホカイウーバ、ケイマード等部落が生じたが直フリチーバが中心の町となつた。高原とモレッテスとを結ぶ最短の道にサン・ジョゼー・ドス・ピニャイスが生じた。1643年最初の開拓者はエレオドーロ、エーバノ・ペレイラである。1854年サンパウロ県から独立してブラジル帝国のパラナ県となつた。当時フリチーバはパラナ県の首府であつたが、ルアは九しかなく人口2万5千。ポルトガル人、スペイン人、土人、黒人、雑種が住んでいた。1889年ブラジル共和国が宣言されると同時にパラナ州の首府となつた。今日人口30万、400ルア。大学はブラジルのゴインブラ大学と云われている。日系家族数250。商業・文化都市である。標高910m、年平均温度16.2℃。市内に電車なし。

フリチーバとは土人語で沢山の松を意味する。

◎カンポ・ラルゴ郡

元々この土地はアントニオ・ルイス大尉の所有耕地であつたが耕地内にカッペーラ・ドス・カンポス・ジエライスをたてた。死後、色々の人の手に入つたが1814年周囲に部落をジョゼー・アントニオ・ダ・ゴスタがつくつた。1870年4月2日郡政の準備をして翌年2月23日実施された。

面積 1586.2 km^2 , 標高 956 m, 人口 3万5千,

産物 材木, 豆,

◎ ポンタ・グロッサ郡を中心とする地方

サンパウロからマツトグロッソ州へ行く道にラッパ, パルメイラ, ポンタ・グロッサ, ^(カストロ・ピライドスール) ジャグアリアーバ, センジエー等があり, 鉄道の開通と共にポルト・アマゾナス, パウロ・フロンチン, ウニオン・デ・ビトリア, マレー, リオ・アスール, イライチ等が開かれ, 耕地から発展したのにリオ・ネグロ, サンマテウドスール, サンジョンド・トリumpf, インビツバ, チバジー, レゼルバ, オルチゲイラ・フリウーバ, イピランガ, ウエセスブラス等がある。

イ. ポンタ・グロッサ郡

創立者ペードロ・タケス・アルメイダ, ドミンゴス・テイシェイラ・デ・アセヴェード, ミゲル・ダ・ロツシヤ・カルヴリャイスとゼスイッタ僧である。

面積 1792.4 km^2 , 人口 6万, 日系 10 家族,

産物 材木,

ロ. リオ・ネグロ郡

南ドイツの移民の立てたコロニアがもとで人口 3万,

△. チバジー

十八世紀の終りにたてられ人口 4万, 大製紙会社がある。この地方は一帶に健康地でパルメイラ, ラッパ, カストロ, ジャガリアーバ, チバジー等は特に弱体病人によろしい。産物としては材木, バタタ, 雑作, 牛豚, 製材, 製紙, 缶詰等である。

Paraná 州の概略

⑥ グアラプアーバを中心とする地方

大部分昔スペインの領土であつたがグアラプアーバからパルマにかけて何回も遠征軍を出して漸くポルトガルの領土として確保したものである。

地味の肥えたところに拘らず開発の後れたのは道がないのと戦いのために余裕がなかつたからである。今日パラナのレゼルバと称せられる所である。

△ グアラプアーバ郡

グアラプアーバ高原は早くから聖州レヂストロの入等には知られていた。

オノ回遠征軍はイグアスーを下つて無事に帰つたがオノ回軍の長はスペイン人のとりことなつた。その後5回の遠征により土人とスペイン人の攻害を排除して今のグアラプアーバを得た。当時沢山の土人がいたが多くはグアラニー語を話した。1816年アントニオ・ロツシヤロウレス中尉がグアラプアーバの守備隊長になつた。2年後、ノッサ・セニョーラ・ベレン・デ・グアラプアーバ部落がつくられ、シャーガス神父がアタライアに土人と共に残つた。

1825年アタライアの周囲をドーリン族が攻害して焼失したが危く神父は難を逃れた。再び三度遠征軍を出して、1843年には村となつた。1871年にはパラナ西部一帯を領する大きな郡となつた。

1923年ラ・ジェイラス・ド・スールが独立の郡となった。ここはインドーロ・ヂーアス・ロソペス将軍の率いる革命軍と正規軍との古戦場である。

1925年ピタンガ郡が独立した。ここはコロアード族と村の住民等の間に激戦がくり返され土人により全滅にあつたことさへあつた悲惨なところであつた。そのため長い間発展が止つていたが漸く今日開発が進むに至つた。

△ パルマス

グアラプアーバの創立後デオゴ・ピント・デ・アゼヴェード・ポルトガル大佐は、土着民の占有する大草原が南方にあるを知つた。1819年アタナジルド・ピント・マルチンスは勇敢なる土人の酋長ヨンゴンに案内させて南大河州のワカリアまでピカーダもあけさせるパルマの草原に達した。その後ジョゼ・A・ペレイラ少佐は一隊を率いてこの方面を歩いてグアラプアーバの人等に良い報を与えた。牧畜の目的で別の道から二隊が出発し彼の地で一緒になつた。

1837年サンパウロ政府はここに守備隊をおいで住民を保護した。ここを発見した当時は多くの土人がすんでいたがその中には勇敢なる酋長ヴィリーに率いられる土人もいた。然し乍らこゝを占領せんとするポルトゲースに対して逆襲するヴァイトン族もいた。この二族は、遂に大激戦を交へ、ヴァイトン族の大部分は殺された。今日ヴィリーの子孫が或は他の協力した土人の子孫が尚生存している。

△ フォス・デ・イグアスー郡

Paraná 州の概観

当地はカイガンゲース族の住んだところであり、1888年までアルゼンチン人とパラカイ人とでフオス・デ・イグアスーからセテ・ゲグスまで開発された。

1888年、ジョゼー・ジョアキン・フイルミーノ技師とメンドンサ・ローボ大尉により軍のコロニアがここに建設され、フアラプアーバ郡に属するブラジル領土となった。

1912年村に、1914年郡政をしいた。1943年联邦区にされたが1947年パラナ州に復帰した。

当地方は開発が遅れているが土地は肥えている（大部分テラロッシマ）将来の発展地である。アサイー・或はマリンガ等から日系も進出している。

都市としてはグアルプアーバは落ち着いたフアゼンデイロの住宅地で婦人も街を歩いている（北パラナではロンドリーナ以外は婦人の歩いているのを見かけなかった）軍隊、師範、銀行がある。

パルマの町はパラナの牧畜の中心である。昔のフアゼンデイロの伝統を持ち郡内には多くの牧場があり、今尚附近には町の建設に協力した土人の子孫が住んでいる。

フオストイグアスーはブラジル、アルゼンチン、パラカイ間古戦場であるのみならず27キロの地点にサンタ・アリア（イグアスー滝）の大滝がある。

フオストイグアスー郡から最近カスカヴェール、グアイーラ、トレード、イグアスー、ペアビルーの諸郡が独立した。之等はペローバ、ジャカラング、カビルユーバ、松等におお

われた貴重な地帯である。又5月から9月にかけてマテ茶の
収穫があるがその大部分の消費者はアルゼンチンでその集散
地はグアイーラ市である。

△グアイーラ郡

マリンガより330キロ、パラガイ及マツグロツソ州と
の境にある。

面積3600 km^2 、市内4000、外2500。

日系 市内ノノ家族(大工、左官、商人)

シネオ……地主 50家族(アサイ、マリンガ等より転出)

産業 棉、豆、ミーリョ、トーラ、プロベンサル、製材
(アルゼンチン系)

エンパニア・マテ・エランゼイラが60年前にここに土地
を持ってマテをここに集め汽車でメンデス港まで運びそこから
アルゼンチンに持つて行つた一つの独立国見たいなもので
あつたが、戦時中ゼツリオ・ヴァルガスはここを接収して1956年
10月郡政をしき守備隊をおいた。

植民地にはグアイーラ親睦会、市内には文化協会がある。
一番古いカフェーは4年生でテーラ、ロツシヤ地帯に見事に
生えている。附近にセテゲダスがある。本当は18の滝が
あるが最初の発見者には7つしか見えなかつたので7ヶ
ゲダスと呼ばれたのである。ここから東南22キロにテーラ・ロ
ツシヤ・デ・スールがある。日系7家族。又附近にパロチ
ナがあり日系7家族いる。

◎カンポ・モロン郡

パラガイ戦争後州政府により売出されたが発展し出したのは

Paraná 村の概観

ポント・グロッサで松の数がへつたのでここより出し始めた為である。7年前近藤正広氏(ハナキロゴヨレ)が外人の耕地の支配人として入つたのが邦人として最初である。

カフェーは6・7年前日本人の手により植えられたが53年と54年の大霜にあい今年が最初の収穫である。附近はイレタマで7アルケール(5コント悪いので2コント位)、日本人会員は18名であるがフロエステ・パウリスタ線から金を持って移住して来た人である。産物 カフェー、米、棉、豆、林産松、マリंगाより南西100キロ、市内戸数3千、人口1万5千。市外4キロのところに昔スペイン人、パラガイ人と激戦した跡がある。

その他日系のいる町としては、フォスト・イフアスーに1家族、トレードに7家族、カスカベールに3家族、ウビラタンに5家族、モレイラ・サーレスに5家族、イレタマに10家族等皆試験時代犠牲部隊である。

◎マリंगा郡

1947年10月10日創設され1951年11月14日郡政がしかれた。

人口5万、郡全体では12万、日系市内に400家族(商業)標高550m、町の長さ5キロ、郡全体の面積は1000⁹km²市内は15⁹km²。産物 棉、豆、ミーリヨ、米、市内に精棉工場、精米所等あり、交通の中心地である。

◎シアノルテ郡

マリंगाから南西に道をとるとジエサーラ(日系30家族あ

リ)を経て北パラナ、メリョラメントス会社の売出したシア
ノルテに着く。

1933年7月26日創立。今57年5月郡政をしく、人
口1万5千。産物カフェー、棉、米、豆、自家用大豆、地質
テラロツシヤ、古いのでコーヒーは6年、大ていまだ若い。
製材所5軒、精米所5軒、カフェーマキナ1軒、精棉工場2
軒、若いこれからの町と云う感じ。日系家族市内40家族(
雑貨商、ポスト、デガジリーナ、鍛冶屋、バザール、呉服屋
等)周囲に15家族(農)あり。シアノルテ文化協会(公認)
55名会員あり。

附近の町

サントメー 15家族

ジャプーラ 5ヶ 附近の土地は1アルケール

ビジガール 2ヶ 15コント〜30コントス

サンローレンス 2ヶ

テラ・ボア 80ヶ

◎クルゼイロ・ドエステ郡

1952年8月25日創立され1955年郡になる。州立の
市街地で初めは小屋1軒立てた者には無料でダツタを与えられ
た。人口1万、標高500m、市内日系家族数60、市外
25家族、主作はコーヒー、米、棉。小学校、中学校あり。

◎マンダグアリー

アプカラナから西に47キロでここにつく。山坂はあるが、
割合に町は平坦、1936年北パラナ土地会社の氏原孝馬氏が

Parana 州の概観

売出した。スロ2万、日本人会(会員70家族)あり、産物
コーヒー。町はアスファルト。

◎ノーバ・エスペランサ

更に西上してマリंगा、マングアスーを至てここに着く
1952年12月14日郡政をしく、北パラナ土地会社の
出地。

日系700家族、中市内180家族、10アルケール平均の
地主が多い。コーヒー、雑作地帯、リンズ、カフェラシジャ
マリリア、ソロカバナ地方よりの転出者が多い。

1アルケール50コント見当、然し南方150キロイバイ
沿岸は15コントから20コントで会社は売つている。本年
植十年祭を催す。

附近イロイには辻耕地(100アルケール)あり。

◎パラナバイー郡

当地は州政府所有のファゼンダ・ブラジリアと称せられ、
至前州内の囚人をここに送り後にミナススを国内移住として
拓させたが能率が上らないので8年前広く外国人に開放し、
アルケール開いた者には10アルケール、小屋ノ軒立てた者
は1ダツタ(15米×45米)を無償提供して今日満植の盛
である。当地は人の気が荒く泥棒は少いが情事に関する殺人事
が多く3年前までは1日1件の割合だつた。その為3年米武
の携帯を許さず町の出入口で通行人が片端から没収した。
日でもメインストリート以外夜間の歩行は注意せねばならぬ
日系700家族中市内200。

当地はマリンガから85キロ、7年平均温度は37度、標高350m、砂地で人口1万5千、小、中學校、医院、精米所、カフェー精選所、放送局等あり、奥地にテラ・リカ、ロアンダ、マリレーナ、サンタイガベルドイバイー、ケレンシア・ド・ノルテ等があり物資の中心地でもあり交通の中心地でもある。産物、コーヒー、棉、雑作、奥地は未だ原始林でノアルゲール10エントス。

◎アストルガ郡

位置、ロンドリーナから70キロ、面積100km²、人口2000戸、日系70家族、半分は商人、半分は商業の従業員、産物はカフェー、雑作、棉、北パラナ土地会社の売出地、地質テラ・ミスタ

周囲の町、サンタセリア、フェルナンデス・ムニオ・デ・メーロ、イグアラスー、フロリダ、ロバット、サンタフェー、イサーラ等あり。

以上で各郡の解説を終る。

次に移住の適地について述べる。

Parana 州の概観

① 海岸地帯と移住

沿岸90キロ、東は大西洋、西は海岸山脈、北は聖州、南はサンタ・カタリナ州この地域は暑く雨が多く産物は魚、エビ、材木、米、バナナ等である。新移住者には不適である。グアラケサーバ、グアラソーバ、パラナグア、アントニーナ、モレッテス等の町がある。日系人も大い聖州或は北パラナの落人で農業もアレンダが多い。

② クリチーバ高原と移住

セーロ・アズール、ボカイウーバ・ド・スール、チンブー、コロンボ、リオ・アランゴドスール、チモフエイラ、クリチーバ、ピラフアーラ、サンジョゼー・ドス・ピニヤイス、チジュッカ、ドスール、カンポラルゴ、アラウカリア等の地域は890m乃至950m、気候温暖地味は肥え、産物はミーリョ、豆、パタタ、松、等である。

旧移民も大体海岸地帯の如く余りパツとしない。歴史が古いので新移民の入る余地が余りない。

③ カンポス・ジェライス高原と移住

ポント・グロッサを中心として北からウエセス・グラス、センジェー、ジャグアリーバ、クリウーバ、ピライ・ド・スール、カストロ、オルチグイラ、チバジー、ポント・グロッサ、インビツーバ、ポルト・アマゾナス、ラッパ、リオネグロ、テイシエイラ、ソアーレス、イラチ、レポウサ、リオアズール、マレー、パウロフロンチン、ンニオダビトリア等の地域で標高750m乃至1000m、気候温暖、産物 雑こく、パタタ、イグアスーの溪谷、特に

サンマテウからはマテ茶、カストロ、ピライ、ジャガリアーバ、
バジー、レゼルバ等は大牧場がある。材木は全地域から産し、
バジーにはパラナオーの製紙工場がある。オルチゲイラ、レゼ
ルバ、イピランガ、テイジェイラ、ソアーレス、マレー、サンマ
テウ等は未開発である。

この特徴は牧畜と製材である。新移住者にとって適地とは考
えられない。

グアラプアーバ高原と移住

△ イグアスー河の左岸地帯と移住

フォス・ド・イグアスー、カパネーマ、サント・アントニオ
パラゴン、フランシスコ、パット・ブランコ、クレブランジア、
パルマス等の小麦地帯、牧畜地帯。

ここは今回は通らなかつたが外人の話により新移住者には不
向と思われる。

△ グアラニアスー、ラランジュイラ・ド・スール、グアラプア ーバの線、標高 1000m から 1300m の地域である。冬時雪が 降る（所により）。森林、特に松が多い。ポーランド人、北 ヨーロッパ人が多い。ここも新移住者には不適と思う。

△ カンポ・モロン → イレタマ → ピタンガ → カスカベール → マテランジア → トレード → グアイーラ → モレイラ、 サーレス。この線に包まれた一帯は大森林で将来のコーヒー、 雑作地帯で北パラナでコーヒー園コロノを卒業した移住者の独 立の場所として最適である。未だ州有地が多いが振興会社等 が購入するか州政府から払下を受けるべきである。満植した北

Paraná 州の移住地

パラナのコーヒー園主がオニの根拠地をここに築くのもそう遠いこととも思われない。新移住者の将来のために御配慮願いたい。パラナに残された唯一のテラロッシヤ地帯である。

⑤ 北パラナ新コーヒー地帯

ノーバエスペランサ、アルトパラナー、パラナバイ、ノーバロンドリーナ、ロアング、サンクイザベル、ジュサーラ、シアノルテ、クルゼイロドエステ、ウムアラーマ、セーラド・ラードス等は新開地で公募で沢山の移住者を希望するより少数で指名呼寄が将来は有望である。

⑥ 北パラナ旧コーヒー地帯

今まで述べた地域以外のものは全部之に含まれる。吾々は全力をあげて公募指名共に呼寄を依頼すべきところと思う。

旧移民と新移住者

1. 旧移民は戦前/日も早く金をこしらへて故郷に錦を飾ろうとしてしやにむに日曜も休まず時間構なしに働いた。

新来移住者は永任の地としてあわてずに働く。急いで帰る必要のない人にとつては生活を楽しむのは当然だ。この態度を見て旧移民は新移民は働きが足りない。俺等はと直ぐやり出す。

2. 耕主は大体旧移民である。かつて自分が使われた様に移住者を扱う。この傭い方はヨーロッパ中世のコロンの奥いがる。口には話せそうなことを云うが身についたブラジル式パトロン根生は

所としようもない。新来者はあえてストライキをじさないし、こゝに於てパトロンはロヤがましい仇のにぶい新来者よりも外人を擁つて新聞の話題から逃げようとする。要するに利己主義のパトロンが多い。勿論例外はある。

3. 勞働力の低い、ロヤがましい新来者を受入れて貰うためには旧移民のパトロンの愛國心に訴えるより外ないものか。

移住者の独立の問題

旧地帯で5ヶ年3人エンシャータで6人家族ならば病氣その他特別の事情がなければ一応の食糧を残して6年目から4年契約又は6年契約に入つて（新地帯で）その後5アルケール位買つて独立したいと云うのが移住者の希望である。独立に際しては5アルケールに対し最低150のコントは要する。少数ではあつたが聞いた丈の人等は割合に楽観していた。然し地価は良いところはサンパウロ郊外よりも高い。無論之等の人は奥地に買う（7アルケール70コント程度）予定である。政府乃至振興会社の応援があれば移住者の勞働意欲は一層となるであらう。

降霜とコーヒーの問題

北パラナー帯に1953年と55年に大降霜があつた。邦人耕
も大被害を受けた。然しこの人等は一応聖州に於ての成功者であ
た為、2年や3年の食ぶちは持つて居り又コーヒー樹は駄目にな
ても米、豆、ミーリヨ、棉等は降霜前に収穫済のためにコーヒー
を捨てて転業する者はなかつた。駄目になつたコーヒー樹も2年
ては実もなり新しい樹と死んど変りがない。この2回の経験によ
耕主はコーヒーと雑作の2本立をとりコーヒー一点張りを止めた
が多い。従つてパラナにコーヒー園コロノとして移住して来た者
雑作にも慣れ将来2本立で独立出来る様にすべきである。勿論水
その他特種のものがあれば之に限らない。然しコーヒーをしたい
は降霜あつてもテラ、ロッシヤに行くべきである。

前編 終

◎ 移住者の実態調査は後にゆずる。

本書は サンパウロ支部 山村采の報告によつて
作成したものである。

1959. 8. 15

